1　研究主題

学びの構えと学力の向上を図るための支援
―― 書くことに喜びをもつ書写学習をめざした取り組みを通して ――

2　研究主題について

（1）これまでの研究経過について

平成１４年度までは総合的な学習の研究を通して生きる力の育成を図ってきたが教科の学習においても問題解決力を充実させ，何よりも基礎・基本を確実に定着させることが必要であることを痛感した。つまり，二者が両輪であることを再確認した。

そこで，昨年度は学習の基盤である学びの構えと基礎学力（計算力）を家庭と連携して高めつつ，算数科の学習の中で問題解決力の向上をめざして，「学びの構えと学力の向上を図るための支援」という主題を設定した。

研究の視点としては，

・家庭と連携して子どもの学びの構えと計算力の向上を図るための支援のあり方

・子ども自らめあてをつかむための支援のあり方

の２点にしぼり，教育課程を工夫して具体的な実践に取り組み，家庭・児童クラブ中学校・幼稚園等と情報交換や共通理解をしながら研究を深めていった。その結果，年度当初と年度末のＣＲＴ検査により学力の向上が明らかになり，成果が認められた。そこで，今後は，学校ぐるみで学びの構えの向上にさらに努めるとともに，算数科以外の教科についても，問題解決力が向上するように研究を進めることになった。

（2）サブテーマ設定について

児童の「書写」に関する実態をみてみると，筆順や文字を書く時の正しい姿勢や執筆が年々低下しつつあるように思われる。また，丸文字・変形文字などを学習場面で使用するなど状況に応じた使い分けができていない児童も見受けられる。

一方，書写の授業を振り返ってみた。児童は，正しい文字を書きたいという思いをもっており，ふだんより丁寧に書こうとしている姿は意識調査からもうかがえる。しかし，教師がめあてを示し，「お手本をよく見て書きましょう。」といっ

た教師主導型で授業を進めることが多かった。そのため，児童が「頑張った。」「うまく書けるようになった。」といった満足感や充実感を味わうことが少なかったように思う。児童一人ひとりが本時の書写学習のめあてを見つけたり，そのめあてを達成したりするための支援が必要である。

そうした反省にたち，今年度は，書写においても問題解決能力の向上を図ることにし，学びの構えを支えとして書く楽しさや喜びを味わわせたいと考えて上記のサブテーマを設定した。

（3）サブテーマの「書くことに喜びをもつ」とは

書写学習において，「書くことに喜びをもつ」とは，次のようにとらえている。

- 時には墨をすり，その香りにつつまれながら文字を書く時に感じる心の落ち着きを，喜びととらえる。
- 自分のめあてをもち，その練習方法を考え，形のよい文字を書こうと集中して書き浸る心地よさを，喜びととらえる。
- 自分自身の伸びに気づいたり，友だちや教師から誉められたり認められたりする時の満足感や充実感を，喜びととらえる。
- 書写の時間に学んだことを，生活の中に生かせたことを，喜びととらえる。

3　研究の視点

研究を進めるにあたっては本校の研究テーマを基盤にすえ，これまでの県習教・市習教の成果を生かして，次の４つの視点で研究を進めていくことにした。

1　昨年度の成果を生かして，書写に関する学びの構えを伸ばしていく。
2　自分でめあてを見つけて，課題を解決するのに適した練習方法を考えながら，学習を進めていく。
3　自分自身の伸びや友達の作品の良さを見つけ，認め合い励まし合いながら学習を進めていく。
4　書写の時間に学習したことを，生活の中に生かしていく。

そして，低・中・高学年別に，次のような評価規準を設定した。

	基礎基本の定着	学習活動の工夫	評価の工夫	生活に生かす工夫
低学年	・姿勢や用具の使い方に気をつけて書くことができる。 ・文字の形に気をつけ，筆順に従って書くことができる。	・自分の頑張りたいたいことを決め，意欲的に書こうとする。	・自分のよくなったところをみつけることができる。	・文字に興味をもち，正しく丁寧に書こうとする。
中学年	・姿勢や用具の使い方に気をつけて，丁寧に書くことができる。 ・文字の組み立て方に気をつけ，文字の形を整えて書くことができる。	・自らの課題に気づき，自分に合ったためあてを選び，意欲的に書こうとする。	・自分や友達のよくなったところを見つけることができる。	・文字の形を意識して，進んで整った文字を書こうとする。
高学年	・姿勢や用具の使い方を正しくするように心がけて，書くことができる。 ・文字の大きさなどに気をつけながら，字配りよく書くことができる。	・自ら課題を見つけ，解決の見通しをもちながら，意欲的に書こうとする。	・自分や友達のよくなったところを見つけ，伸びたことを共に喜び合うことができる。	・書くことに楽しみや喜びを見つけ，日頃の生活に生かそうとする。

4　研究の内容

評価規準にせまるために，次のような手だてを考えた。

（1）基礎基本の定着（視点１）

①書写の歌と筆順指導

○書写の歌

文字を書く前に「足はペタン，背中はピン，おなかと背中にグー１つ」などと，覚えやすいメロディーで歌いながら姿勢のとり方を確認し，正しい姿勢で書こうという意識が高まるようにする。

○筆順指導

・かけ声をかけながら腕を大きく動かして空書きをし，筆順を確認するようにする。

・グループに分かれ，一筆一筆をリレー形式で書いていくようなゲームを取り入れて，楽しみながら筆順の確認ができるようにする。

②掲示の工夫

○姿勢図と鉛筆の持ち方の図などの掲示

各教室はもちろん，特別教室にも姿勢図と鉛筆の持ち方の図を掲示し，常に正しい姿勢や鉛筆の持ち方を意識して学習できるようにする。

③身なり

○エプロン・腕カバーの着用

毛筆入門期の児童は，用具の使い方に慣れていないため衣服を汚すこともあるので，必要に応じて着用するよう呼びかける。

（2）学習活動の工夫　（視点２）

①一人ひとりがめあてをもつ工夫

○実態把握

書写に関する意識調査から，児童が苦手意識をどのようなところにもっているかをつかみ，練習の場の設定や机間指導・評価の方法などを工夫する。

○めあてのつかませ方の工夫

・形のよい文字と形のよくない文字を示し，はなまるの文字はどれか話し合う中で，自分のめあてに気づくことができるようにする。

・手本を見て試書した後，手本と試書を比べて，うまく書けているところとうまく書けていないところを見つけ，めあてをつかませるようにする。

・拡大した手本をもとに，児童全員で文字をはね・おれ・筆脈などについて分析的に見た後，試書と分析的に見た手本を比べながら，自分のめあてを明確にする。

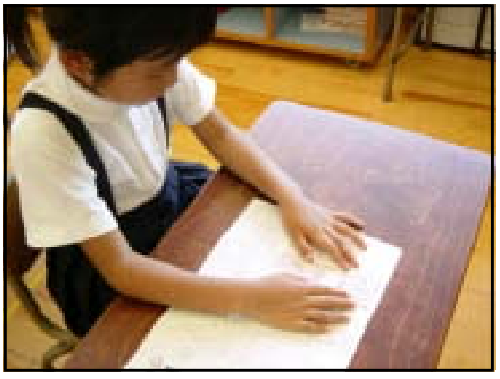
②練習の場の工夫

○用具を用いた練習の場

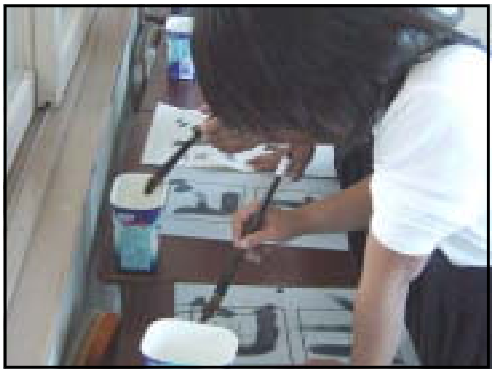
児童が，自分のめあてに沿って意欲的に取り組むことができるように，いくつかの練習コーナーを設定する。

分解文字

米ぬか



クリアシート



水書版

○練習用紙の工夫

数種類の補助プリントを用意し，各自のめあてに沿った練習ができるようにする。

＜どのプリントを選ぼうかな。＞

（３）評価の工夫（視点３）

①自己評価

・試書とまとめ書きを比較して自己のめあてに沿って評価することで，その時間の伸びを確認しやすくし，満足感を味わうことができるようにする。

・「たしかめカード」の観点に沿って振り返ることで，めあてにむかって努力した満足感を味わうことができるようにする。

②相互評価

・教材提示装置を使って，書いた文字を紹介することにより，その児童が教師や友達に誉められたり認められたりすることで，喜びを感じることができるようにする。

・隣同士でよいところを見つけることにより，努力の結果を互いに認め合う喜びを感じ，成就感をもたせるようにする。

（４）生活に生かす工夫（視点４）

書写の授業時間に学習したことを，生活の中に取り入れるようにすることで，進んで書こうとする意欲をもたせる。

①他教科

○生活科・社会科等

　生活科の観察カードや社会科のまとめ等において，文字を使って正しく丁寧に表現する。

○図画工作

　粘土作品の題材名と名前を書いて掲示する。

②特別活動

○学級活動

　４月のはじめ，クラスのめあてと自分のめあてを筆で書き，教室の前に掲示する。

○児童会

　感謝の気持ちをこめて誕生月ごとに６年生の児童名を筆ペンで書き，「６年生を送る会」では，それを掲げて歌ったり，卒業式の見送りに使ったりする。

③学校行事

○運動会

秋の運動会のスローガンを，運営委員会の児童が横断幕を書いて，校舎に掲示する。

④総合的な学習の時間

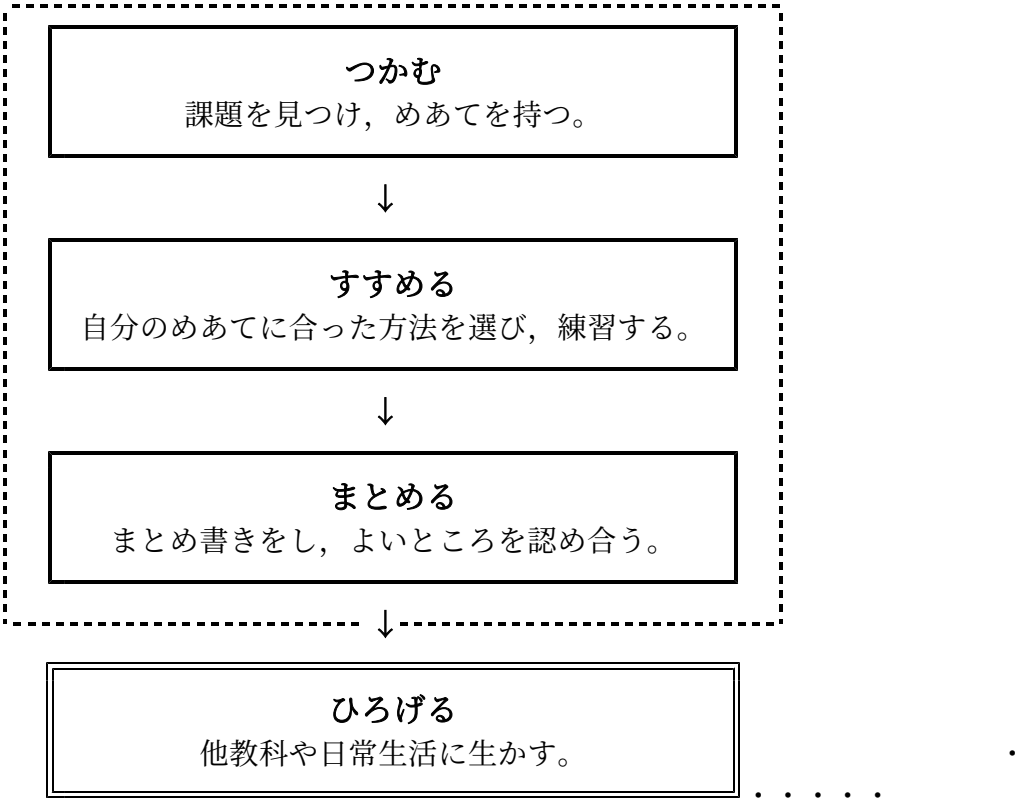
総合的な学習の時間に「書写に親しみ，日本の伝統的な芸術や文化に触れよう。」というテーマで季節の絵と文をかき，掲示する。

⑤地域・家庭

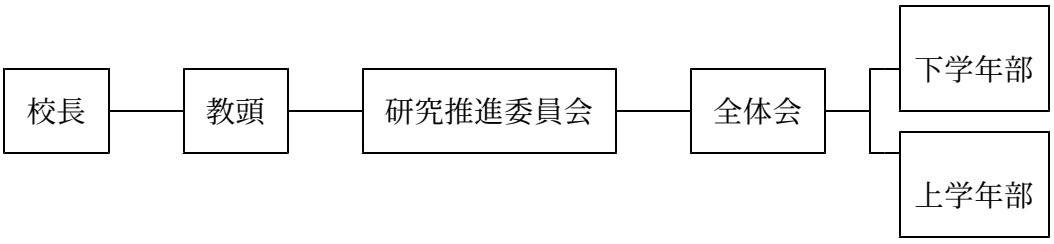
地域の行事である夏祭りや水祭りなどに，習字をはったあんどんを出している。

5　学習過程

上記のような視点をもとに，本校では，次のような学習過程を設定した。



6　研究組織



7　研究構想図

1　研究の成果と課題

「学習の構えと学力の向上を図るための支援 ── 書くことに喜びをもつ書写学習をめざした取り組みを通して ── 」という研究主題のもとに，児童に書く楽しさや喜びを味わわせたいと考えて研究に取り組んできた。その結果，次のような成果が見られるようになってきた。しかし，課題も明らかになってきており，今後もさらに研究を深めていきたいと考える。

（1）研究の成果

①基礎基本の定着

・全学級に姿勢図・鉛筆の持ち方の図などを掲示し，繰り返し指導することにより，次第に姿勢や鉛筆の持ち方に気をつけるようになった。
・５月と１２月に児童の意識調査を実施した。このことは，児童一人ひとりの意識を把握することができ，児童の変容を確かめたりする上で役立った。
　１２月の意識調査では，筆順に気をつけて丁寧に書いていると答えた児童が多くなった。

②学習活動の工夫

・試書と手本を比較したり手本を分析的に見たりすることにより，自分のめあてを見つけることができるようになった。
・めあてごとの練習用紙・水書板コーナーなど練習の場を工夫することによりめあて達成に向けて意欲的に取り組むようになった。

③評価の工夫

・「自己評価カード」などで取り組みを振り返ることにより，自分の伸びに気づくことができるようになった。
・試し書きと清書とを並べて掲示することにより，自分で上達を確認するだけでなく，友達に上達を認められ充実感をもつようになってきている。

④生活に生かす工夫

・書写の作品を廊下に掲示することにより，他学年の児童の作品も鑑賞しやすくなった。大勢の人に認めてもらい，それが「次の時間もがんばろう。」という意欲につながった。
・運動会のスローガンなどを毛筆でかくことに挑戦した。字形や字配りに気をつけて一生懸命に取り組む姿が見られた。
・書写の時間だけではなく，ノートの文字や黒板に書く文字なども，丁寧に字配りを考えて書くようになった。

（2）今後の課題

・学習過程の中では，めあてを「つかむ」段階に時間がかかり，練習する時間が短くなりがちである。めあてを短時間で的確につかむことができるようにするための方法をさぐっていきたい。
・相互評価の際，友達同士の頑張りや作品の良さを見つけることはできるようになってきているが，ややもすると字形に目をうばわれ，めあてに沿った相互評価は，まだ不十分である。
・日常生活の場に，書写学習で学んだことを生かそうとする意識をさらに高めるようにしていきたい。

８研修の経過

＜研推＞＝研究推進委員会　　＜全体会＞＝校内全体研究会
＜下学年部＞＝下学年部会　　＜上学年部＞＝上学年部会

４月２８日	＜研　推＞	研究主題と研究内容について原案作成 本年度の研究の進め方について原案作成
５月１０日	＜全体会＞	研究主題と研究内容について原案決定 部会メンバー決定
５月２１日	＜研　推＞	学習過程について原案作成
５月２４日	＜全体会＞	邑久小学校の研究会の紹介と学級での実践について話し合い 研究授業と研究授業の時期・学年について検討
６月１８日	＜研　推＞	今後の研修計画について原案作成
６月２１日	＜全体会＞	西小学校の実践をビデオ視聴して，学習過程について検討
７月１４日	＜全体会＞	研究授業と公開授業の時期・学年の決定 今後の研修計画について検討
７月２１日	＜下学年部＞	研究授業の題材決定と掲示の計画
７月２９日	＜下学年部＞	教材研究，指導案の検討
８月２６日	＜上学年部＞	公開授業の題材決定と掲示の計画
８月２７日	＜下学年部＞	指導案の検討
８月３０日	＜上学年部＞	教材研究，指導案の検討
９月　３日	＜研　推＞	研究会の冊子の内容について原案検討
９月　６日	＜全体会＞	研究会の冊子の内容について検討
１０月１８日	＜全体会＞	指導案の説明，協議
１０月２６日	＜全体会＞	研究授業と研究協議 第３学年　　ひらがなの曲がりとはらい　「つり」 講師　　平木　雅人先生
１１月１９日	＜全体会＞	岡山県書写研究大会（喬松小学校）へ参加・実践報告，指導案検討
１２月１７日	＜研　推＞	研究会当日の日程と役割について検討
１２月２０日	＜全体会＞	指導案検討，研究会当日の日程と役割について検討
１月　７日	＜全体会＞	指導案の検討，協議，研究冊子の原稿作成
１月　１８日		研究冊子の製本
１月　３１日		研究会準備